

報告課題⑨ 第3回テストに向けて (復習プリント)

●表面

一、「漢詩は中国文学の精髓であり…」とあるように、古来から文学の最上位に位置付けられてきたのが漢詩である。それは書き手のほとんどが男性であり、公式文書を硬質な文体で書けるのは男性だけだと思われていたからだと言われる。これに対し、「小説」という言葉があるが、これは「小」(ちっぽけな)「説」(論議、日常の他愛もないこと)という意味で、所詮「つくりごと」という意識から、漢詩より劣るため、名づけられたとされる。

※数え方と用語

・漢詩は和歌と同じように一首、二首と「首」と数える。

絶句…四行(四句)。各行をそれぞれ起・承・転・結という。

律詩…八行(八句)。二行ずつをそれぞれ首聯・頷聯・頸聯・尾聯という。頷聯・頸聯で対句表現をとる。

・一行(一句)の字数で分けると五言・七言がある。(●は押韻する文字を表す)

(五言絶句の例) 起・○○○○○

(七言絶句の例) 起・○○○○○○○

承・○○○○○

承・○○○○○○○

転・○○○○○

転・○○○○○○○

結・○○○○○

結・○○○○○○○

(五言律詩の例)

(七言律詩の例)



※注意

・教科書P三三三「山行」とP三三四「江雪」は教科書のページの都合で、絶句が上下二行に分かれてしまっているが、本来は四行、横に続く。読み方は一行を縦に読み、二行目に移る。左の通り。

「山行」

遠上寒山石径斜↓白雲生処有人家↓停車坐愛楓林晚↓霜葉紅於二月花

「江雪」

千山鳥飛絶↓万径人蹤滅↓孤舟蓑笠翁↓独釣寒江雪

四、「夜来」現代語訳は教科書P三三二下段②を参考に。学習書P二八三下段を参考にすると、「来」が(助字のため意味はない)と勘違いしてしまうので注意すること。

春晓…押韻する文字は「晓」「鳥」「少」であるが、「ぎょう」「ちよう」「しょう」と音読みをひらがなで書くより、「gyou」「tyou」「syou」とローマ字で考えた方が、同じ響きの音であることが、よりわかると思われるので、

押韻する字を考える時の参考にすること。

漢詩に詠まれることの多いテーマ…自然への畏敬、友人との交流や別れ、戦争、家族愛、自己の感慨、季節感、旅情…など

厄除け詩集からもう一首

勸レ酒オナム 于武陵ウブリョウ

コノサカヅキヲ受ケテクレ (勸君金屈卮)

きみ すす 君に勸む 金屈卮

ドウゾナミナミツガシテオクレ (満酌不須辞)

まんしゃくじ 満酌 辞するを須いず

ハナニアラシノタトヘモアルゾ (花発多風雨)

はなひら 花 発けば ふううおおし

「サヨナラ」ダケガ人生ダ (人生足別離)

じんせい べつりた 人生 別離足る

サヨナラだけが人生だ、という言葉は、初音ミクの曲の歌詞や、川島雄三監督の映画タイトルにも使われるほど有名なセリフとなっています。

●裏面

一、その他の年齢の異名

四十歳 強仕(きょうし)：『礼記』にある「四十を強」といふ。而して仕うしゅうより。

四十八歳 桑年(そうねん)：「桑」の異字体が、4つの「十」と「八」に分けられることから。

六十一歳 還暦(かんれき)：六十年経ち、生まれた年の干支に一回りして還ることから、数え年で六十一歳のこと。

八十歳 傘寿(さんじゅ)：「傘」の異字体が「八」「十」に見えることから。

八十一歳 半寿(はんじゅ)：「半」を「八」「十」「一」に分けられることより。

百歳 百寿(ももじゅ・ひゃくじゅ)

百八歳 茶寿(ちやじゅ)：「茶」の字は、草冠を「十」と「十」に分け、下の部分の「八十八」と足して一〇八になるから。

百十歳 珍寿(ちんじゅ)：これ以上生きるとは珍しいことから。

百十一歳 皇寿(こうじゅ)：「皇」の字を「白」「十」「十」「一」に分ける。「百」の字の上の部分にある「一」を取ると「白」の字になることから「白」は「九十九」を表す。全部足して「百十一」になることから。

二、④表現技法なし「じんすくなしと」

表現技法あり「すくなしじんと」↓語順を変えることにより強調したい部分がより明確になる。

四、「三省」の「三」は「何度も」という意味で、実際の「三回」という意味ではないことに注意する。これは報告課題

⑤で「虎の威を借る」を学んだとき、「百獸」の「百」が実数ではなく「全て」と訳したのと同じことである。漢文では数字を誇張することが多く、その最たるものは「白髪三千丈」という表現である。

※「省」の読みについて

- ・「せい」と読むのは「反省」「猛省」「内省」など自分の気持ちを振り返るとき。
- ・「しょう」と読むのは「省エネルギー」「省力」など「はぶく」の意味になるとき。

五、儒教が広まった地域について：教科書P三四一の写真資料が掲載されたページをよく読むこと。

六、「不愠」についてマ行上二段活用であることに注意する。

動詞	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
うらむ	うら	み	み	む	むる	むれ	みよ

※マ行四段活用(ま・み・む・む・め・め)ではない